

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察注意報の発表について（送付）  
このことについて、発生予察注意報第1号を発表しましたので送付します。

## 注 意 報

農作物名 早期水稻  
病害虫名 斑点米カメムシ類

### 1 予報内容

- (1) 発生地域 早期水稻栽培地域
- (2) 発生時期 出穂期～糊熟期
- (3) 発生程度 平年比 多

### 2 注意報発令の根拠

- (1) 2009年6月に、上天草市松島町ですくい取り調査（植生：イタリアンライグラス及びイネ科雑草）を行った結果、第1週と第2週は平年並の捕獲数であったが、第3週は、斑点米の産出能力が高いクモヘリカメムシの捕獲数が平年より多かった（別紙）。
- (2) 早期水稻栽培地域においては、7月上旬に出穂期となるため斑点米カメムシ類による被害が予想される。
- (3) 気象予報（6月19日福岡管区气象台発表）によると、向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は平年並の予想であり、本種の発生に好適な条件となる。

### 3 防除上注意すべき事項

- (1) 防除適期は、穂揃い期とその7～10日後（乳熟期）である。2回の防除で生存虫や新たな侵入が認められる場合は、穂揃い期の14～20日後（糊熟期）に追加防除を行う。地域で一斉防除を行うと効果が高い。
- (2) 斑点米カメムシ類の加害は低密度でも品質に影響を与えるので（出穂期のクモヘリカメムシの密度が1～2頭/100㎡を超えると斑点米率は0.1%以上となる）、出穂期に成虫を見かけたら防除を徹底する。
- (3) クモヘリカメムシの防除には、合成ピレスロイド系、有機リン系薬剤の効果が高い。
- (4) カメムシの種類によって薬剤の効果が異なるため、発生している種類を調べて、効果の高い薬剤を選定する。
- (5) 水稻出穂後における周辺雑草の除草は、本田への飛来を助長するため行わない。
- (6) 薬剤散布にあたっては、使用基準を遵守するとともに周辺環境を十分確認し、ミツバチも含め周辺動植物等への飛散などによる影響が無いよう十分注意する。特に、養蜂家へ事前に防除時期等の連絡を行うなど、危害防止に努めること。

すくい取り調査でのカメムシ類成虫捕獲数  
(上天草市、イタリアン・イネ科雑草、10回振り平均)

